

烏山弁天池とは？

烏山弁天池は、宙水を水源とする池です。この地域は、区内でも地下水位が特に高く、地表近くの宙水が池の水を涵養しています。「鴨池」の名で親しまれ、夏にはスイレンやコウホネが見事な花を咲かせます。「みどりとみず」が一体となった貴重な環境であり、区の特別保護区に指定されています。



※烏山弁天池は寺院の境内地であるため、見学にあたっては、ご迷惑にならないように十分お気をつけください。

宙水保全の必要性

宙水に恵まれた地域では、地下水面が地表近くに位置することから井戸の掘削深度が浅く、古くから浅井戸による地下水の利用が行われてきました。

また、豊水期には宙水は本水との連続性を持つ場合もあります。

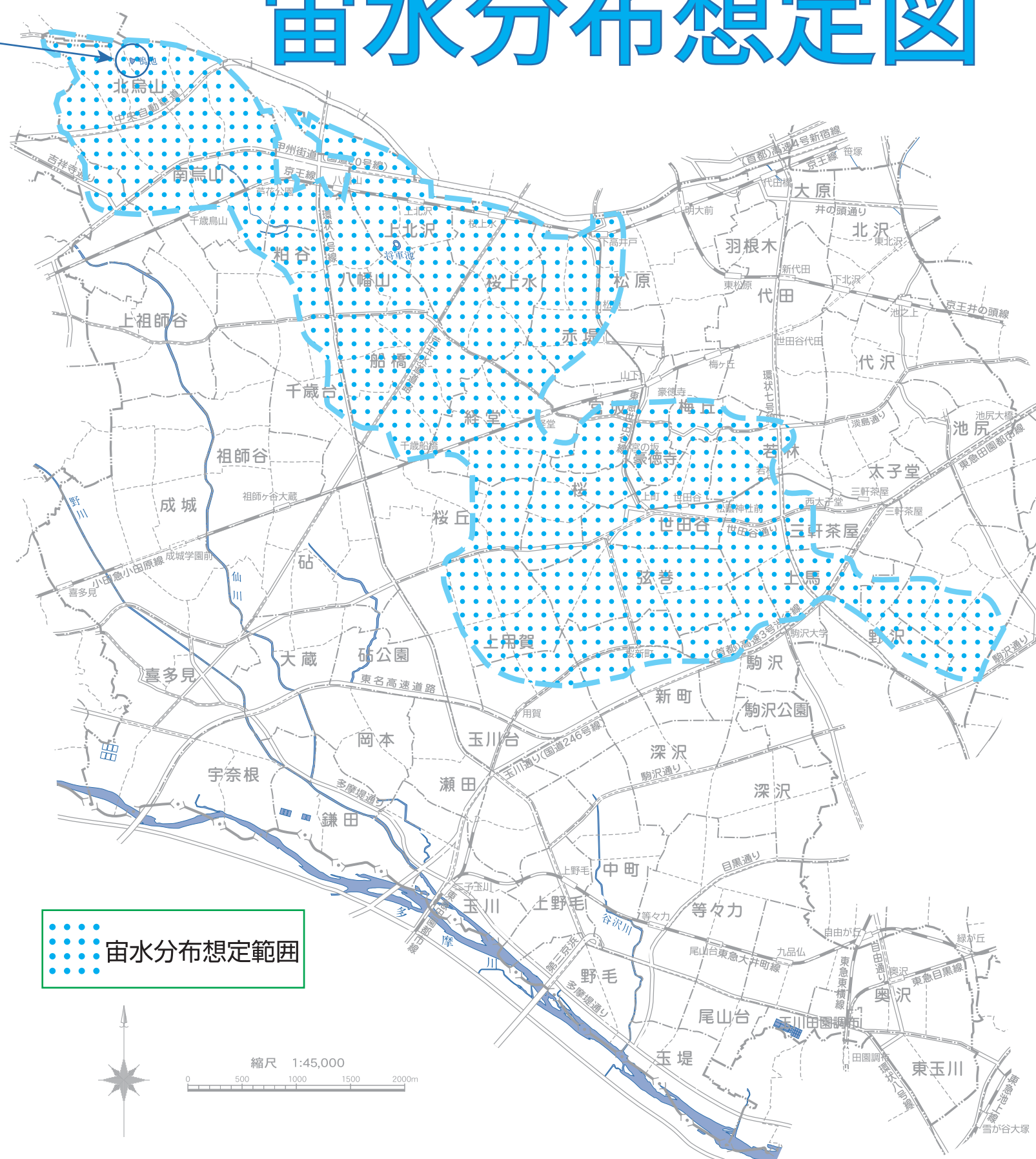
潤いのある世田谷区の水環境を次代に継承するために、宙水の保全が必要です。



宙水を利用した井戸

（地表約1.3 m程の深さに水面があります。）

宙水分布想定図



この想定図は、区が実施した宙水現況調査の結果に基づき、宙水が分布する可能性の高い範囲（世田谷区内）を示したものです。宙水は、降雨条件や地下水の揚水、地表被覆の改変等によって、その分布範囲に変化がみられるため、図中の想定範囲の全ての地域にわたって常に宙水が分布するとは限りません。また、想定範囲外であっても、宙水が分布する場合があります。

※宙水現況調査：平成23・24年度に日本大学文理学部地球システム科学科水圏環境科学研究室の協力により実施し、既存のボーリングデータを用いた地質の分析、井戸の水位測定等の調査により、区内の宙水の分布状況を把握しました。

世田谷の地下水

世田谷区内には、主として地表から約10m～15mの深さに浅層地下水（不圧地下水）が賦存し、武蔵野れき層と呼ばれる砂れき層中をゆっくりと流動しています。国分寺崖線に沿って地表に湧出する貴重な湧水はこのような地下水の一部であり、宙水と区別する意味で本水（ほんすい・ほんみず）と言われます。

本水に対し宙水は、地表から約2m～4mの浅い位置に賦存し、砂れき層の上部を覆うローム層中に分布しています。宙水は、本水に比べると広く一般に認知されているとは言えませんが、世田谷区の水環境を特徴づける貴重な地下水の分布形態です。

宙水とは？

地表に降り注ぐ雨水の一部は地中に浸透し、その多くはローム層を通過してさらに下位の砂れき層中の本水を涵養します。しかし、ローム層中に粘土質等の水を透し難い層（難透水層）が介在する場合には、水が地中で局地的に受け止められる結果、本水より地表に近い位置にも地下水が分布します。これが宙水です。

宙水は、区内のどこにでも存在する地下水ではなく、武蔵野台地の限られた地域に地形や地質などの条件によって分布しており、水の得やすさの面から古来より集落の立地と密接に関わってきました。

